

佛蘭西民法
十

東京圖書館	
新門	一
部	一
架	五
號	九

CF2
3
07

三
共
十
六
本

明治法律未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

弘士筆筆受

仙蘭西

法律書

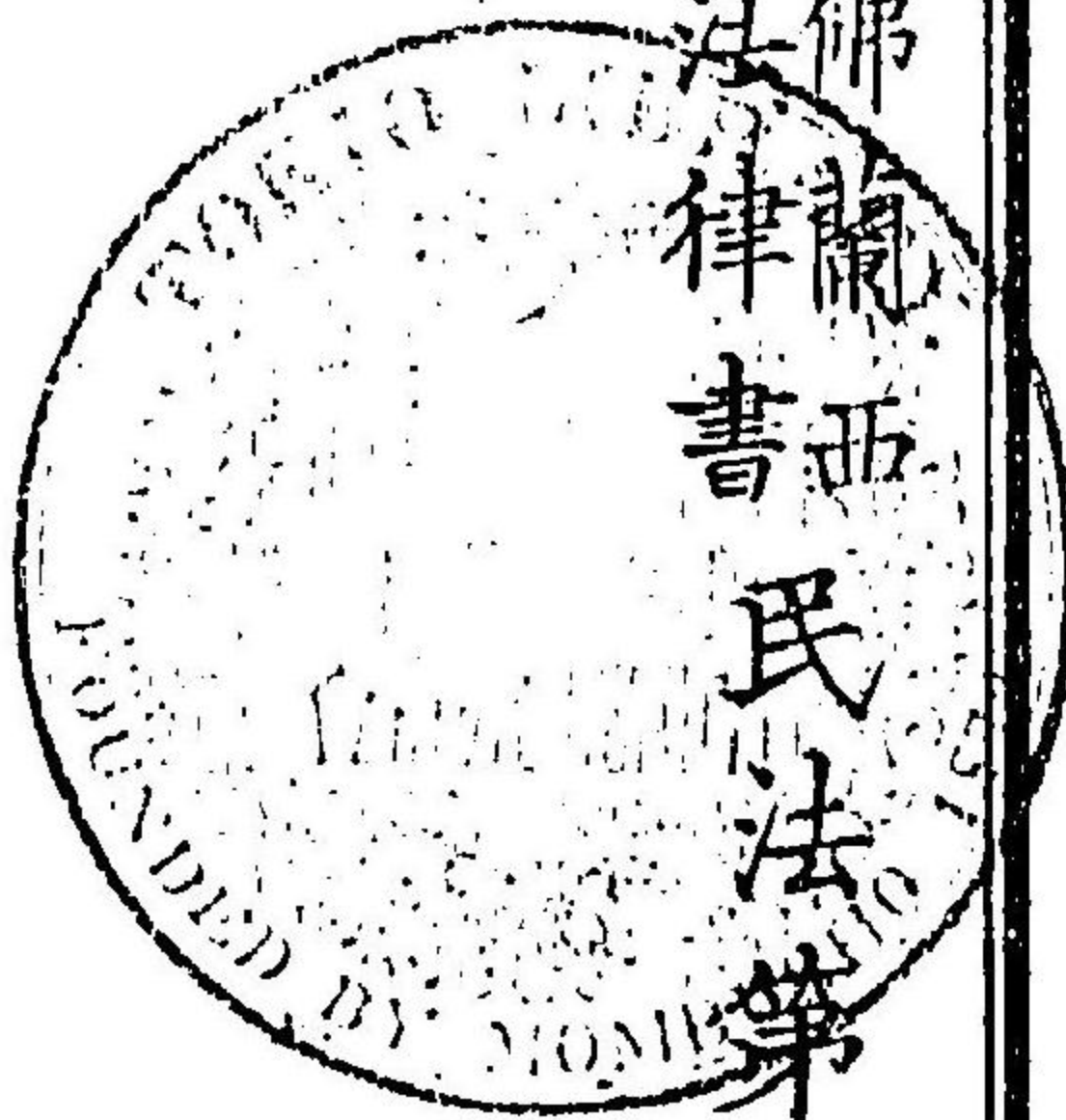
民法

文部省



CF2
3
07

佛蘭西法律書 民法第十



文部少博士箕作麟祥口譯

明治五年...

第五卷

婚姻ノ契約書及ヒ夫婦雙方ノ

權(千八百四年第二月十日決定同月廿

日布告

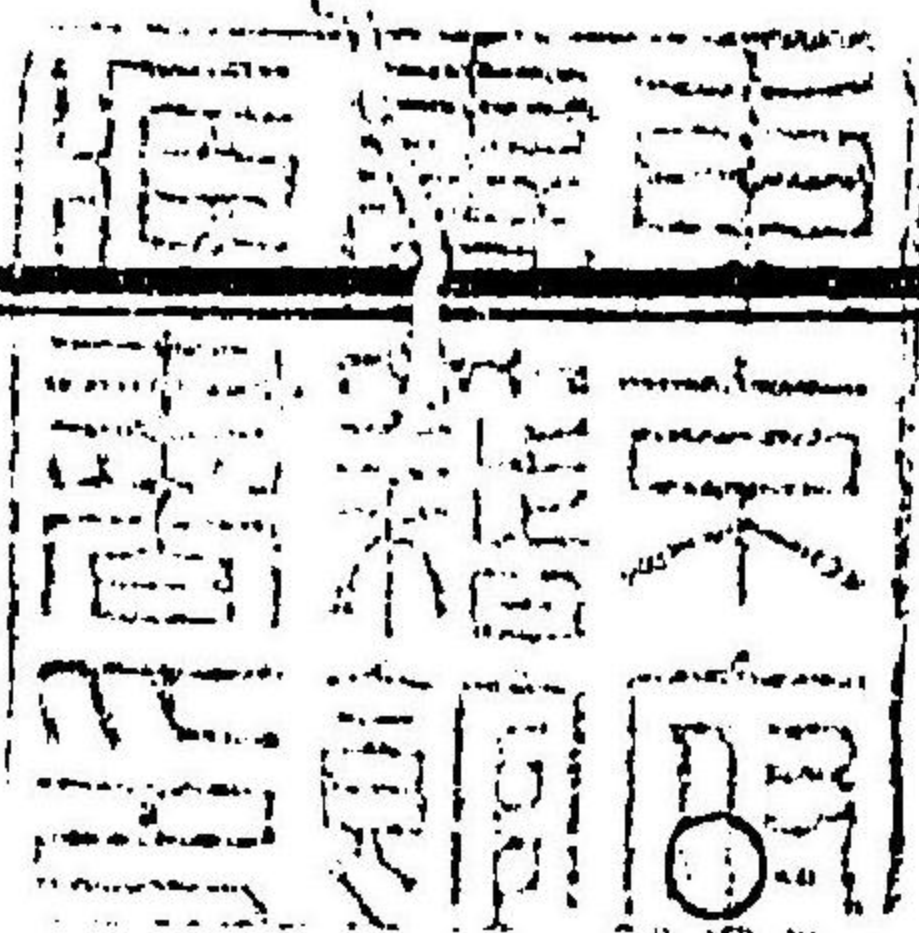
第一章

總規則

第一千三百八十七條

夫婦トナル可キ雙方ノ間

ニ別段ノ契約ノキ時ノ外ハ法律ヲ以テ夫婦



佛蘭西民法

第五卷第一章

...

CF2
3
07

明治九年未刊行

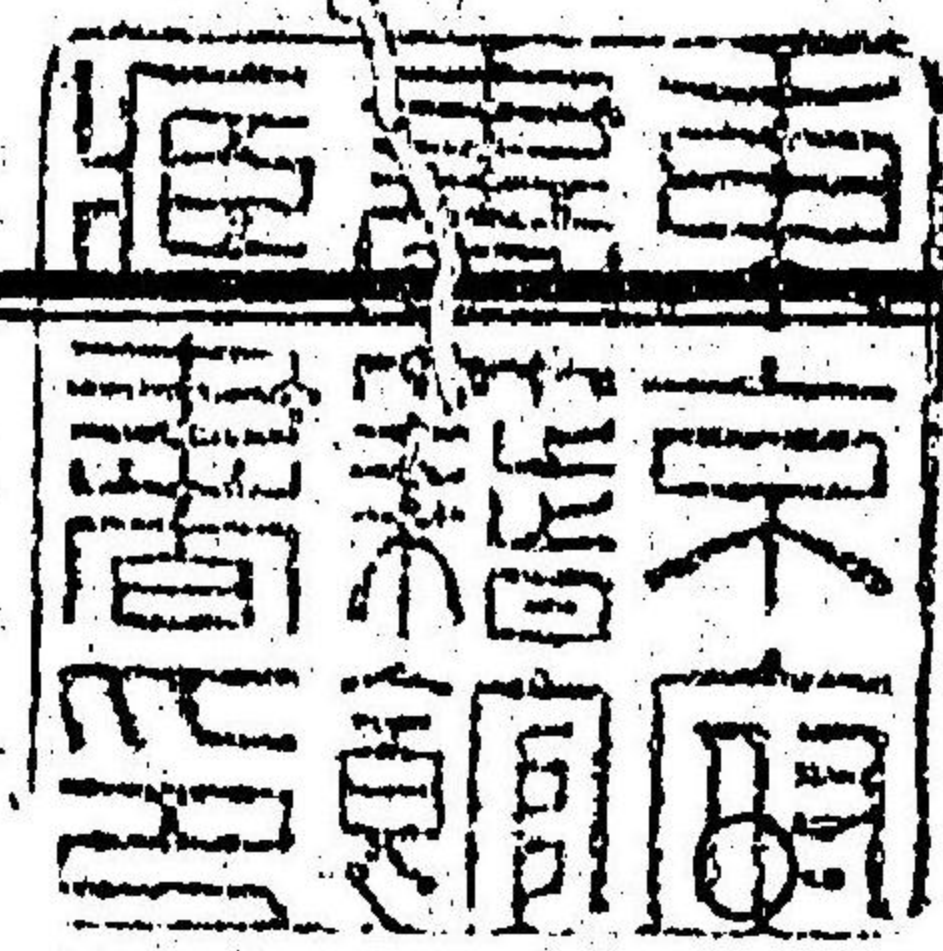
文部少博士箕作麟祥口譯

辻土筆筆受

仙蘭西
法律書
民法

文

省



文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

第五卷 婚姻ノ契約書及ヒ夫婦雙方ノ

權(千八百四年第二月十日決定同月廿

日布告

○第一章 總規則

第一千三百八十七條 夫婦トナル可キ雙方ノ間

ニ別段ノ契約ナキ時ノ外ハ法律ヲ以テ夫婦

佛蘭西民法

第三篇第五章第一章

一

大正

ノ財産支配ノ法方ヲ規定スルナシ但シ夫
婦ハ國ノ風俗ヲ亂ルナク且後ノ數條第三百
八十八條以下第千五百九ニ記列スル所ノ規
則ニ循フ時ハ其隨意ノ契約ヲ取結フヲ得
可レ

第一千三百八十八條 夫其婦及ヒ其子ノ身ノ上
ヲ指令スルニ付テノ權夫ノ家長タルニ付キ
有スル所ノ權第一篇第九卷親ノ及ヒ第十卷
幼年後見ニ循ヒ夫婦中ノ生存スル者ニ與フ
等ノ事ル所ノ權並ニ民法ニ於テ別段定メタル所ノ

規則第四百三十九條第九條第十
四百五十三條等見合ハ夫婦ノ契約ヲ
以テ之ニ背クヲ得ス

第一千三百八十九條 夫婦ハ其子又ハ卑屬ノ親
ヨリ遺物相續ヲ為スニ付キ雙方ノ間ニ其當
然ノ規則ヲ變易セントシ又ハ其數人ノ子ヲ
シテ自己ノ遺物相續ヲ為サシムルニ付キ其
數人ノ間ニ遺物相續ノ當然ノ規則ヲ變易セ
ントスルノ契約又ハ拋棄ヲ為スヲ得ス但
シ此條ニ記スル所ハ民法ニ定メタル場合ト
法式トニ循ヒ為スヲ得可キ生存中ノ贈遺

及ヒ遺囑ノ贈遺ノ差支トナルトナカル可シ

第千九十一條以下數條見合

第千三百九十條 夫婦ハ往時佛蘭西國中ノ各

所ニ行ハレ方今此民法ヲ以テ廢シタル各地

方ノ風習及ヒ法例ニ循ヒ婚姻ノ契約ヲ為ス

可キ事ヲ泛博ニ定ムルヲ得ス

第千三百九十一條 一千八百五十年第七月十日

左ノ如ク改ム然ル夫婦ハ財産共通ノ法又ハ

嫁資分括ノ法ヲ以テ婚姻ヲ結フ可キ事ヲ泛

博ニ定ムルヲ得可シ

財産共通ノ法ヲ用フル時ハ夫婦及ヒ其相續

人ノ權ヲ此卷ノ第二章ニ循ヒ定ム可シ

嫁資分括ノ法ヲ用フル時ハ夫婦及ヒ其相續

人ノ權ヲ此卷ノ第三章ニ循ヒ定ム可シ然ル

婚姻ノ證書ニ夫婦契約書ナクシテ婚姻ヲ結

ビシト記載シタル時ハ其婦他人ニ對シ平

常ノ法第千三百九十ニ循ヒ其夫ト婚姻ノ契

約ヲ結ヒタルモノト為ス可シ但シ其婦他人

ト結ビシ契約ノ證書中ニ別段婚姻ノ契約書

ヲ記シタル事ヲ記載シタル時ハ此例ニ非ス

第一千三百九十二條 婦自カラ其財産ヲ嫁資ト為シ又ハ他人ヨリ其財産ヲ婦ノ嫁資ト為ス可キノ約束アルノニニテ別段婚姻ノ契約書ニ其財産ヲ嫁資分括ノ法ニ處置ス可キヲ登記セサル時ハ其財産ヲ此法ニ處置スルヲ得ス又夫婦其財産ヲ共通スルヲナク婚姻ヲ為シ又ハ互ニ其財産ヲ分ツテ婚姻ヲ為ス可キヲ述ベタルノニニテハ亦其財産ヲ嫁資分括ノ法ニ處置スルヲ得ス

第一千三百九十三條 夫婦其財産ニ付キ共通ノ

法ニ反レタル契約ヲ結ビン時又ハ其法ノ例外タル契約ヲ結ビン時ノ外ハ通常此卷ノ第二章ノ第一則ニ記スル規則ヲ以テ佛蘭西婚姻ノ定則ナリトス

第一千三百九十四條 一千八百五十年第七月十八日左ノ如ク改ム總テ婚姻ノ契約書ハ婚姻ヲ結フ前ニ「テール」之ヲ記ス可シ

「テール」ハ第一千三百九十一條ノ末項ト此條ノ末項トヲ夫婦トナル可キ雙方ノ者ニ讀ミ聞ス可シ○其讀ミ聞レタル事ハ之ヲ其契約

書中ニ附記ス可シ若シ之ヲ附記セサルハ
 一ルハ十「フランク」ノ罰金ヲ言渡サル可シ
 「テ」ハ夫婦雙方共ニ婚姻ノ契約書ニ姓
 名ヲ手署シタル時己ノ姓名住所及ヒ雙方ノ
 者ノ姓名身ノ上住所並ニ其契約書ノ日附ヲ
 無印税ノ紙ニ記シタル受合書ヲ雙方ノ者ニ
 渡ス可シ○其受合書ニハ雙方ノ者婚姻ヲ行
 フ前ニ其書ヲ民生ノ官吏ニ渡ス可キ旨ヲ附
 記ス可シ

第千三百九十五條 婚姻ノ契約書ハ婚姻ヲ行

フタル後ニ更改ス可カラス

第千三百九十六條 婚姻ヲ行フ前ニ其契約書

ノ條件ヲ更改セントスル時ハ之ヲ為ス
 得可シ但シ此場合ニ於テハ其契約書ト同一
 ノ法式ヲ用ヒ記レタル所ノ證書ヲ以テ其更
 改ノ旨ヲ證明ス可シ

又其更改ノ證書又ハ秘密ノ證書婚姻ノ契約

ノ證書ト云フルハ婚姻ノ契約書ニ管セシ者

盡ク立會ノ上同時ニ之ヲ承諾シタルニ非レ
 ハ其効ナカル可シ

第一千三百九十七條 總テ婚姻ノ契約書ヲ更改スル證書又ハ秘密ノ證書ハ縱令前條ニ記セタル規則ニ循ラタルモノト雖モ之ヲ婚姻契約書ノ正本ノ末ニ附記シタルニ非サレハ其契約書ニ管セサル者ニ對シ其効ナカル可シ又ハチールルハ更改ノ證書又ハ秘密ノ證書ヲ婚姻契約書ノ寫ノ末ニ附記セシテ之ヲ渡ス可カラス若シ之ニ背ク時ハ之カ為ノ損失ヲ受ケン者ニ對シテ償ヲ出シ又別段ノ道理アル時ハ更ニ重キ罰ヲ言渡サル可シ

第一千三百九十八條 婚姻ノ契約ヲ結ブトテ得可キ幼者ハ其契約書ノ箇條ヲ承諾シテ之ヲ定ムルトテ得可シ但シ其幼者ノ定メタル契約及ヒ贈遺ハ其幼者ノ婚姻ヲ為ストテ許ス可キ權アル者之ヲ承諾レタル上ニ非サレハ其効ナカル可シ

○第二章 夫婦財産共通ノ法

第一千三百九十九條 夫婦財産ヲ共通スルトハ法律上ヨリ生スルト契約ヨリ生スルトヲ問ハス民生ノ官吏ノ面前ニテ婚姻ヲ結ビシ日

ヨリ之ヲ始ム可ク他ノ期日ヨリ始ムルヲ
約ス可カラス

○第一則 法律上ヨリ生シタル財産
共通ノ法

第一千四百條 財産共通ノ法ヲ用ヒ婚姻ヲ結ブ
可キトテ述ヘタル時又ハ別段契約ノアラサ
ル時ハ後ノ六款ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ其
財産ヲ共通ス可シ

○第一款 共通財産ノ利得及ヒ負債

○第一節 共通財産ノ利得

第一千四百一條 共通財産ノ利得トナル可キ物
ハ左ノ如

第一 夫婦婚姻ヲ行フタル日ニ其所有
スル動産並ニ夫婦タル時間遺物相續
又ハ贈遺ノ名義ヲ以テ夫婦ノ得タル
動産ノ全部但シ其贈遺ヲ為ス者特ニ
其贈遺シタル財産ヲ夫婦共通ノ財産
中ニ入レサルヲ定メ置キタル時ハ
格別ナリトス

第二 婚姻ヲ行フタル時夫婦ニ属スル

財産ヨリ生スル利益、入額、息銀又ハ何
 ノ名義タルヲ問ハス夫婦タル間ニ得
 タル財産ヨリ生スル利益、入額、息銀、但
 シ其利益、入額、息銀ハ其種類ノ如何ナ
 ルヲ問ハス夫婦タル時間ニ得ル所ノ
 モノニ限ル可シ

第三 夫婦タル時間ニ買ヒ入レタル不
 動産

第十四百二條 夫婦中ノ一人婚姻ヲ結フ以前
 ヨリ所有ト為シ又ハ法ニ循テ占有セシ證ア

ル不動産又ハ婚姻ヲ結ビシ後遺物相續或ハ
 贈遺ノ名義ヲ以テ得タル證アル不動産ヲ除
 クノ外如何ナル不動産ト雖モ共通ノ財産中
 ニ入ル可キモノト為ス可シ

第十四百三條 森林ヨリ伐リタル木材又ハ石
 礦又ヒ其他ノ礦中ヨリ掘出シタル物ノ中第
 二篇第三卷等ノ額所得ニ記シタル規則ニ循ヒ
 物件入額ノ所得ナリト為ス可キ諸件ハ皆之
 ヲ共通ノ財産ニ属ス可シ
 此規則ニ循ヒ財産ヲ共通スル時間ニ森林ヨ

リ伐り出ス可キ木材アル時之ヲ伐り出サ、
 ルニ於テハ夫婦中ニテ其森林ヲ所有セサル
 一方ノ者又ハ其相続人ニ他ノ一方ヨリ相當
 ノ償ヲ為ス可キノ義務アリ
 又夫婦タル時間ニ石礦及ヒ其他ノ礦ヲ穿開
 ニ其掘出シタル物ヲ共通ノ財産中ニ加入レ
 タル時ハ後ニ共通ノ財産中ヨリ一方ノ者ニ
 相當ノ償還ヲ為ス可シ

第一千四百四條 夫婦婚姻ヲ行フタル日ニ所有
 シタル不動産又ハ遺物相続ノ名義ニテ夫婦

タル時間ニ得タル不動産ハ共通ノ財産中ニ
 属セサルモノトス

然レ夫婦中ノ一人財産共通ヲ約シタル婚姻
 ノ契約書ヲ記セシ後未タ婚姻ヲ行ハサル前
 ニ不動産ヲ買入レタル時ハ其不動産ヲ共通
 ノ財産中ニ属ス可シ但シ婚姻ノ契約書ノ箇
 條ニ循ヒ其不動産ヲ買入レタル時ハ其契約
 ニ循ヒ其不動産ヲ取扱フ可シ

第一千四百五條 夫婦タル時間ニ人ヨリ夫婦中
 ノ一人ニ贈遺トシテ與ヘタル不動産ハ之ヲ

共通ノ財産中ニ屬ス可カラス其贈遺ヲ受ケタル夫又ハ婦ノミニ屬ス可シ但シ其不動産ヲ贈遺ト為シタル者之ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可キヲ別段定メタル時ハ格別ナリトス

第一千四百六條 父母及ヒ其他尊屬ノ親夫婦中ノ一人ニ對シ負フタル義務ヲ盡クス可キ為メ又ハ父母及ヒ其他尊屬ノ親他人ニ對シ負フタル義務ヲ夫婦中ノ一人ヲシテ盡クサシム可キ為メ其一人ニ贈與シタル不動産ハ之ヲ共通ノ財産中ニ屬ス可カラス但シ此等ノ

手續ヲ為スニ付キ共通ノ財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其贈遺ヲ受ケタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

第一千四百七條 夫婦中ノ一人ニ常テ屬シタル不動産ト交換ノ名義ヲ以テ夫婦タル時間ニ其一人ノ得タル不動産ハ之ヲ共通ノ財産中ニ加フ可カラス但シ其交換ヲ為スニ付キ共通ノ財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其交換ヲ為シタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

第一千四百八條 夫婦中ノ一人嘗テ他人ト共同
 シテ所有シタル不動産ノ一部ヲ糶賣ニテ買
 入ル、名義又ハ其他ノ名義ニテ夫婦タル時
 間ニ買入レタル時ハ之ヲ共同ノ財産中ニ加
 フ可カラス但シ其不動産買入ニ付、共同ノ
 財産中ヨリ費シタル所ハ夫婦中其買入ヲ為
 シタル一方ノ者共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可
 レ
 夫其一身ノ名前ニテ其婦ノ他人ト共同シテ
 所有シタル不動産ノ全部又ハ一部ヲ買入レ

タル時ハ後ニ夫婦財産ノ共通ヲ解除スル時
 ニ至リ婦其不動産ヲ嘗テ共通セシ財産中ニ
 加ヘ置クヲ承諾シ又ハ其不動産買入ノ代
 金ヲ共通ノ財産中ニ償フテ之ヲ引取ルヲ自
 由タル可シ但シ婦其不動産ヲ共通ノ財産中
 ニ加ヘ置クヲ承諾シタル時ハ其不動産ノ
 價中ニテ婦ニ属ス可キ其一部ノ共通ノ財産
 中ヨリ其婦ニ償フ可シ

○第二節 共通財産ノ負債及其
 負債ニ付キ受ク可キ訴訟

第一千四百九條 共通財産ノ負債トナル可キ物ハ左ノ如シ

第一 夫婦其婚姻ヲ行フタル日ニ負フタル動産ノ債及ヒ夫婦タル時間其夫婦人ヨリ遺物相續ヲ為スニ付キ擔當ス可キ動産ノ債但シ夫婦中ノ一方ノミニ屬スル不動産ヲ嘗テ買入レタルニ付テノ負債ハ縱令動産タリト雖モ後ニ其一方ノ者ヨリ共通ノ財産中ニ之ヲ償フ可シ

第二 夫婦財産ヲ共通スル時間夫ノ契約シテ負フタル債又ハ夫ノ承諾ヲ以テ其婦ノ契約シテ負フタル債ノ元金及ヒ息銀但シ夫婦中ノ一方ヨリ其債ヲ共通ノ財産中ニ償フ可キ道理アル時ハ之ヲ償フ可シ第一千四百三十七條見合セ
第三 夫又ハ婦ノ一身ノミニ管シテ負フタル債ノ息銀
第四 共通ノ財産中ニ屬セサル不動産ヲ修理スルニ付キ其入額ヲ所得ト為

ス者ノ當然擔當ス可キ費用

第五 夫婦ノ飲食料、其子ノ教育料及ヒ
其他婚姻ノ間ノ諸費

第一千四百十條 婚姻ヲ結ビシ前ニ婦ノ負フタ
ル動産ノ債ヲ其婚姻ヲ結ビシ前ニ記シタル
公正ノ證書ヲ以テ證シタル時又ハ其負債ノ
證書公正ノモノニ非スト雖其之ヲ官署ノ簿
冊ニ登記シ或ハ之ニ姓名ヲ手署シタル者一
人又ハ數人ノ死去シタルニ因リ婚姻ヲ結フ
前ニ其證書ヲ記シタル日附ノ確定シタル時

ノ外總テ共通ノ財産ヲ以テ其負債ヲ擔當ス
ルニ及ハス

又婚姻ヲ結ビシ前ニ負フタル債ノ契約證書
ノ日附確定セザル時ハ其證書ニ據リ婦ヨリ
其債ノ償ヲ得ントスル者其婦ノ一身ニ属ス
ル不動産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充ント
訴ルヲ得可シ

○若シ又夫其婦ノ為メ此類ノ負債ヲ自カ
ラ償ヒタリト述フル時ハ後ニ其婦又ハ婦ノ相
續人ニ對シテ其償ヲ得ント訴フルヲ得ス

第一千四百十一條 夫婦タル時間夫婦中ノ一方ノ者人ヨリ相續シタル動産ノ負債ハ共通ノ財産ヲ以テ盡ク之ヲ擔當ス可シ

第一千四百十二條 夫婦タル時間夫婦中ノ一方ノ者人ヨリ相續シタル動産ニ付キ擔當ス可キ負債ハ共通ノ財産ヲ以テ之ヲ擔當スルニ及ハス唯其債主ハ夫婦中其一方ノ相續シタル動産所有ノ權ヲ以テ其償ニ充ント訴フルヲ得可シ然凡夫其不動産ヲ人ヨリ相續シタル時ハ其

不動産ニ付テノ債主夫ノ一身ニ属スル諸般ノ財産所有ノ權并ニ其入額所得ノ權ヲ以テ其償ノ償ニ充ント訴へ又然ノミナラス共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ント訴フルヲ得可シ但シ共通ノ財産ヲ以テ夫ノ債ヲ償ハタル時ハ夫ヨリ其婦又ハ婦ノ相續人ニ對シテ其償ヲ為ス可キノ義務アリ

第一千四百十三條 婦其夫ノ承諾ヲ得テ人ヨリ不動産ヲ相續シタル時ハ其不動産ニ付テノ債主其婦ノ一身ニ属スル諸般ノ財産所有ノ

權并ニ其入額所得ノ權ヲ以テ其債ノ償ニ充
 ント訴フルヲ得可シ然レ婦其夫ノ承諾ヲ
 得ルヲナク裁判所ノ允許ノミヲ以テ人ヨリ
 不動産ヲ相續シタル時ハ其不動産ニ付テノ
 債主其不動産ヲ得タルノミニテ尚其債ノ償
 ヲ得ルニ足ラサル時其婦ノ一身ニ属スル他
 ノ財産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充ント訴
 ルヲ得可ク其入額所得ノ權ヲ以テ其償ニ
 充ント訴フ可カラス

第一千四百十四條 夫婦中一方ノ者人ヨリ相續

シタル財産ノ一部ハ動産ニシテ一部ハ不動
 産ナル時其相續シタル財産ニ付擔當ス可キ
 キ負債アルニ於テハ其動産ノ價ト不動産ノ
 價トヲ比較シ其負債中ニテ動産ニ管シタル
 部分ハ之ヲ共通ノ財産ヲ以テ擔當シ其餘ハ
 其相續ヲ為シタル夫又ハ婦ノ一身ニ之ヲ擔
 當ス可シ
 此負債中ニテ動産ニ管シタル部分ハ遺物財
 産ノ目錄ヲ以テ之ヲ定ム可シ但シ夫自カラ
 人ヨリ相續ヲ為ス時ハ自己ノ權利ニ因リ其

目錄ヲ記セシメ又其婦人ヨリ相續ヲ為ス時
 ハ夫其管理ヲ為シテ之ヲ記セシム可シ
 第一千四百十五條 目錄ナキニ因リ婦ノ為ノニ
 損害ヲ生シタル時ハ婦又ハ其相續人財産ノ
 共通ヲ解除スル時ニ至リ其夫ニ對シテ其損
 害ノ償ヲ得ント訴フルヲ得可ク且目錄ヲ
 記セサル動産アリテ其價ノ幾許ナルヤヲ證
 ス可キ為ノニハ證人又ハ家内ノ證書類又已
 ムヲ得サルニ於テハ人ノ通知スル評説ヲ以
 テ其證ト為スヲ得可シ

夫ニ於テハ此等ノ法方ヲ以テ其證ヲ立ルヲ
 得ス

第一千四百十六條 第一千四百十四條ノ規則アリ

ト雖氏夫ノ人ヨリ相續シタルト婦其夫ノ承
 諾ヲ得テ人ヨリ相續レタルトヲ問ハズ其相
 續シタル財産ノ一部ハ動産ニシテ一部ハ不
 動産タル時ハ其遺物財産ニ付テノ債主夫婦
 共通ノ財産ヲ以テ其債ノ償ニ充ント訴フル
 ノ差支トナルヲナカル可シ但シ此等ノ場合
 ニ於テハ夫又ハ婦ヨリ共通ノ財産中ニ其償

ヲ為ス可キノ義務アリ
 又婦裁判所ノ允許ヲ得タルノミニテ人ヨリ
 相續ヲ為レタル時ト雖ル夫預シメ目錄ヲ記
 セサルニ因リ其遺物ノ動産ト共通ノ財産中
 ノ動産ト相混シタルニ於テハ亦前ニ記スル
 所ニ等シトス

第千四百十七條 夫其婦ノ人ヨリ遺物相續ヲ
 為スコトヲ承諾セズ其婦裁判所ノ允許ヲ得テ
 其遺物相續ヲ為レタル時其遺物動産ノ目錄
 アルニ於テハ其遺物財産ニ付テノ債主其遺

物ノ不動産及ヒ動産ヲ以テ其債ノ償ニ充
 トスルコトヲ要シ若シ其不動産及ヒ動産ヲ以
 テ其償ヲ得ルニ足ラサル時ハ婦ノ一身ニ属
 スル他ノ財産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充
 ント要ムルコトヲ得可シ

第千四百十八條 遺物相續ヲ為スニ因リ擔當
 ス可キ負債ニ付キ第千四百十一條以下ノ數
 條ニ定メタル規則ハ贈遺ノ財産ニ付キ擔當
 ス可キ負債ニモ亦通シテ用フ可シ

第千四百十九條 婦其夫ノ承諾ヲ得タル上ニ

テ人ヨリ債ヲ負フタル時ハ其債主夫又ハ婦ノ財産ト共通ノ財産トヲ以テ其債ノ償ニ充ント要ムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ婦ヨリ共通ノ財産中ニ其償ヲ為シ且夫ニ其償ヲ為ス可シ

第一千四百二十條 婦其夫ノ名代人タルノ權アリテ負フタル債ハ共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ツ可シ但シ其債主ハ其婦ニ對シ其一身ノ財産ヲ以テ其償ニ充テシム可キヲ要ム可カラス

○第二款 共通ノ財産ヲ支配スル事
及ヒ夫又ハ婦ノ記シタル證書ノ効

第一千四百二十一條 夫ハ一人ニテ共通ノ財産ヲ支配ス可シ

夫ハ其婦ノ承諾ヲ得シテ共通ノ財産ヲ賣拂ヒ又ハイポテクト為スヲ得可シ

第一千四百二十二條 夫ハ其婦トノ間ニ舉ケタル子ニ産業ヲ定メシムル為メノ外償ヲ得スレテ共通ノ不動産ヲ生存中ノ贈遺ト為ス

ヲ得ス又償ヲ得スシテ其動産ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺ト為スヲ得ス然レ夫ハ如何ナル人ノ為メト雖レ共通ノ動産中ノ別段指定メタル品物ヲ償ヲ得スシテ贈遺スルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ夫其贈與シタル動産ノ入額所得ノ權ヲ已ニ保有スルヲ得ス
第千四百二十三條 夫ノ為ス所ノ遺囑ノ贈遺ハ共通ノ財産中ニテ其得可キ部分ニ過クルヲ得ス

夫共通ノ財産中ノ物件ヲ遺囑ノ贈遺ト為シ人ニ贈與シタルト雖レ後ニ共通ノ財産ヲ分派スル時ニ其贈遺ト為シタル物件夫ノ相續人ノ得タル部分中ニ入リタルニ非レハ其贈遺ヲ受タル者之ヲ品物ノ儘得ント求ムルヲ得ス又其贈遺ト為シタル物件夫ノ相續人ノ得タル部分中ニ入ラサル時ハ其贈遺ヲ受クル者共通ノ財産中ニテ夫ノ相續人ノ得ル所ノ部分及ヒ夫ノ一身ニ属スル財産ノ部分中ヨリ其贈遺トシテ受ク可キ物件ノ代金ヲ

得可シ

第一千四百二十四條 准死ニ至ラサル罪犯ノ為メ夫ノ出ス可キ罰金ハ共通ノ財産中ヨリ之ヲ償ヒ後ニ夫ヨリ其婦ニ對シテ其償ヲ為ス可シ又婦ノ出ス可キ罰金ハ夫婦互ニ其財産ヲ共通スル間其婦ノ一身ニ屬スル財産所有ノ權ノミヲ以テ其償ニ充テシムルヲ得可シ

第一千四百十五條 准死ニ至ル可キ罪犯ノ為メ夫婦中一方ノ者刑ノ言渡ヲ受クル時ハ共通

ノ財産中ニテ其者ノ得可キ部分並ニ其者ノ一身ニ屬スル財産ノミヲ以テ其償ニ充ツ可シ

第一千四百二十六條 夫ノ承諾ヲ得スレテ其婦ノ記シタル證書ノ契約ハ其婦公ケノ商賈ニシテ其商業ノタメ為シタル時ノ外縱令裁判所ノ允許ヲ得タルト雖モ共通ノ財産ヲ以テ其償ニ充ツ可カラズ

第一千四百二十七條 婦ハ其夫ヲ獄舎中ヨリ出サシム可キ為メ又ハ夫ノ失踪ノ時其子ノ産

業ヲ定メシム可キ為メト雖モ別段裁判所ヨ
リノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ共通ノ財産
ヲ人ニ貸貸シ又ハハイポテクト為シ又ハ賣
拂フテ得ス

第一千四百二十八條 夫ハ婦ノ一身ニ屬スル財
産ノ全部ヲ支配スルノ權アリ
夫ハ其婦ニ屬スル動産ニ付テノ訴訟及ヒ不
動産占有ノ權ニ付テノ訴訟ヲ總テ一人ニテ
為ストテ得可シ
夫ハ其婦ノ一身ニ屬スル不動産ヲ婦ノ承諾

ヲ得スシテ賣拂ヒ又ハ贈與スルヲ得ス
夫其婦ノ財産ヲ保全ス可キ處置ヲ為リ、ル
ニ因リ其財産ノ損壞シタル時ハ自カラ其責
ニ任ス可シ

第一千四百二十九條 夫一人ニテ其婦ノ不動産
ヲ九年以上ノ期限間人ニ貸貸スルノ契約ヲ
為シ置キ後ニ財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至
リ其最初ノ九年ノ期限ニ猶殘期アルニ於テ
ハ其婦又ハ其遺物相續人其殘期ノ間ノ其
契約ヲ遵守ス可シ但シ此財産貸渡ノ第二次

ノ期限又ハ第三次第四次等ノ期限ニ於テモ
皆之ニ倣フ可シ故ニ其不動産ノ賃借人ハ當
時ノ九年ノ期限間ノ之ヲ借受クルノ權アリ
トス

第一千四百三十條 夫一人ニテ其婦ノ所有スル
土地ヲ人ニ貸貸セシ當時ノ期限ノ終ル時ヨ
リ三年以上前ニ又其婦ノ所有スル家屋ヲ人
ニ貸貸セシ當時ノ期限ノ終ル時ヨリ二年以
上前ニ九年以下ノ期限ヲ以テ更ニ改メテ其
土地又ハ家屋ヲ貸與フ可キノ契約ヲ為シタ

ルト雖凡財產ノ共通ヲ解除スル前ニ既ニ其
貸貸ノ契約ノ如ク執行フテ始メタル時ニ
非サレハ其契約ノ効ナカル可シ

第一千四百三十一條 共通ノ財產ノ事務ニ付キ
又ハ夫ノ事務ニ付キ夫ト連帶シテ債ヲ負フ
タル婦ハ其夫ニ對シテ唯其債ノ保證人ナリ
ト看做ス可シ但シ婦其債ヲ拂フタル時ハ夫
ヨリ其償ヲ得可キノ權アリ

第一千四百三十二條 婦其一身ニ屬スル不動産
ヲ賣拂フタル時夫其婦ト連帶シ又ハ其他ノ

法方ヲ以テ賣拂ノ保證人第十條見合タル時其買入人ノ損失ヲ償フアルニ於テハ共通ノ財産中ニテ婦ノ得可キ部分又ハ婦ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ其償ヲ得ント其婦ニ對シテ訴フルヲ得可シ

第千四百三十三條 夫婦中一方ノ者ニ屬スル不動産ヲ賣拂ヒ又ハ夫婦中一方ノ者ニ屬スル不動産ニ付キ其得可キ土地ノ義務ヲ釋放シ人ヨリ金高ヲ得テ其金高ヲ共通ノ財産中ニ加入シ其金高ヲ利益トナル可キ法方ニ再

ヒ用フルヲナキ時ハ其賣拂フタル不動産又ハ土地ノ權利ヲ有セレ夫又ハ婦後ニ共通ノ財産中ヨリ其金高ヲ己ニ取戻ス可キノ權アリ

第千四百三十四條 夫財産ヲ買入ル、時嘗テ自己ノ一身ニ屬セシ不動産ヲ賣拂ヒ其得タル所ノ代金ヲ利益トナル可キ法方ニ再ヒ用フ可キカ為メ其代金ヲ以テ其財産ヲ買入ルニ旨ヲ述フルニ於テハ其金高ヲ利益トナル可キ法方ニ再ヒ用ヒタルト看做ス可シ

第一千四百三十五條 又婦ノ不動産ヲ賣拂フテ得タル代金ヲ其婦ノ利益トナル可キ法方ニ再ヒ用フ可キカ為メ更ニ財産ヲ買入レタル旨ヲ夫ヨリ申述フルト雖モ婦其財産買入ノ事ヲ明カニ承諾シタルニ非サレハ夫其金高ヲ婦ノ利益トナル可キ法方ニ再ヒ用ヒタリト為ス可カラズ但シ婦其買入レノ事ヲ承諾セサル時ハ其婦財産ノ共通ヲ解除スル時ニ至リ其嘗テ賣拂フタル自己ノ不動産代金ノ償ヲ得ルノ權アリ

第一千四百三十六條 夫ニ属スル不動産代金ノ償ハ共通財産ノ合部中ノミヨリ之ヲ得可ク又婦ニ属スル不動産代金ノ償ハ先ツ共通ノ財産中ヨリ之ヲ得又其財産ノ足ラサル時ハ夫ノ一身ニ属スル財産中ヨリ之ヲ得可レ○何レノ場合ニ於テモ夫又ハ婦賣拂フタル不動産ノ價ニ付キ如何ナル申述ヘヲ為スヲ問ハス其賣拂ノ價ニ從テ其償ヲ為ス可シ

第一千四百三十七條 夫婦中一方ノ者嘗テ人ヨリ買入レタル不動産ノ全價或ハ其價ノ一部

ヲ拂フ為メ又ハ人ヨリ土地ノ義務ノ釋放ヲ
 得ル為メノ如ク總テ其一方ノ者ハ一身ニ負
 フタル債ヲ償フニ付キ又ハ其一方ノ者ノ一
 身ニ屬シタル財産ヲ人ヨリ取戻シ又ハ之ヲ
 保全シ又ハ之ヲ良好ニ為スニ付キ共通ノ財
 産中ヨリ金高ヲ取用ヒタル時又ハ其他總テ
 夫婦中一方ノ者其一身ノミノ利益ノ為メ共
 通ノ財産ヲ用ヒタル時ハ其一方ノ者共通ノ
 財産中ニ其償ヲ為ス可レ

第一千四百三十八條 夫婦連合シテ其子ニ嫁資

ヲ贈與シ其贈與ス可キ部分ヲ別段各自ニ定
 ノサル時ハ共通ノ財産ヲ以テ既ニ其嫁資ヲ
 贈與シ又ハ贈與ス可キノ約ヲ為シタルト其
 夫婦中一方ノ者ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ
 既ニ其嫁資ヲ贈與シ又ハ贈與ス可キノ約ヲ
 為シタルトテ問ハス夫婦各其嫁資ノ半ハヲ
 贈與シタルト為ス可レ

夫婦中一方ノ者ハ一身ニ屬スル財産ヲ以テ
 其子ニ嫁資ヲ贈與シタル時ハ自己ノ不動産
 又ハ動産ヲ嫁資トシテ贈與セシ一方ノ者他

ノ一方ノ財産中ヨリ其嫁資ノ半ノ償ヲ得可
キ訴ヲ為スノ權アリ但シ其償ヲ得ント為ス
ニ付テハ其嫁資ヲ贈與シタル時ノ價ニ從フ
可シ

第一千四百三十九條 夫一人ニテ共通ノ財産ヲ
其婦トノ間ニ舉ケシ子ニ嫁資トシテ贈與セ
シト約シタル時ハ共通ノ財産ヲ以テ其嫁資
ノ贈與ニ充ツ可シ此場合ニ於テ財産ノ共通
ヲ解除シタル後婦其共通ノ財産ヲ受クル
ヲ肯シタル時ハ其婦其嫁資ノ半ヲ己ニ擔當

ス可シ但シ夫其子ニ贈與スル嫁資ノ全部又
ハ其半以上ヲ己ニ擔當ス可キ事ヲ別段定メ
置キタル時ハ格別ナリトス

第一千四百四十條 己ノ子ニ嫁資ヲ贈與ス可キ
者ハ其嫁資ニ付キ他人ヨリ訴訟ノ起ルヲナ
キノ保證ヲ為ス可ク且其嫁資ヲ渡ス可キ期
限ヲ別段定メタルト雖モ其子ノ婚姻ヲ結
ニ至リ猶之ヲ渡サル時ハ其日ヨリ以來ノ
息銀ヲ渡ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル
時ハ格別ナリトス

○第三款 財産ノ共通ヲ解除スル事
及ヒ其解除ヨリ生スル條件

第一千四百四十一條 財産ノ共通ハ左ノ場合ニ
於テ解除ス可レ

第一 死去

第二 准死

第三 離婚

第四 夫婦居ヲ分ツ事

第五 夫婦財産ヲ分ツ事

第一千四百四十二條 夫婦中一方ノ者死去シ又

ハ准死ヲ受ケタル後ハ共通財産ノ目録ヲ記
スルヲナレト雖モ財産ノ共通ヲ繼續ス可カ
ラス但シ其共通ノ財産ニ管係アル者ハ證書
又ハ人ノ通知スル評説ヲ以テ證ト為レ共通
財産中ニ云々ノ物件アリレトテ訴フルヲ得
可レ

幼年ノ子アル時夫婦中ノ後ニ生存スル者共
通財産ノ目録ヲ記セサレニ於テハ其子ノ入
額ヲ所得ト為スノ權ヲ失フ可シ又其幼者ノ
後見人父母中ノ一者ノ監察者夫婦中ノ後ニ

生存スル者ヲレテ其目錄ヲ記セシメサル時
 ハ其監察者後ニ生存レタル夫又ハ婦ト連帶
 レテ知者ニ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可レ
 第千四百四十三條 夫婦財産ヲ分ツ事ハ夫ノ
 産業ノ衰敗セレニ因リ夫ノ一身ノ財産ヲ以
 テ婦其嫁資ヲ取戻スニ足ラサルノ恐アル時
 其婦ヨリ之ヲ裁判所ニ訴出スルヲ得可レ
 夫婦隨意ニテ財産ヲ分テタル時ハ其効ナカ
 ル可レ

第千四百四十四條 裁判所ヨリ夫婦財産ヲ分

ツ可キヲ言渡レタルト雖モ夫ノ財産ヲ以
 テ現ニ婦ノ嫁資ヲ返還スルニ充テ且其旨ヲ
 公正ノ證書ニ記シタル時又ハ裁判所ノ言渡
 ヲリ十五日内ニ其言渡ノ如ク執行ヲ可キ手
 續ヲ為シ始メ其後繼續レテ其手續ヲ為シタ
 ル時ニ非レハ其財産ヲ分テタルノ効ナカル
 可レ

第千四百四十五條 夫婦財産ヲ分ツ事ハ之ヲ
 執行ヲ以前下等裁判所ノ公室ニ別段設ケ置
 キタル懸帖ニ其事ヲ記シテ之ヲ公ケニ為ス

可ク且夫商賈又ハ銀舗主タル時ハ更ニ其住
 所ノ商法裁判所ノ公室ニ設ケ置キタル懸帖
 ニモ亦其事ヲ記シテ之ヲ公ケニ為ス可レ但
 レ此等ノ事ヲ為サ、ル時ハ財産ヲ分ツ事ノ
 効ナカル可レ
 財産ヲ分ツ可キ裁判言渡ノ効ハ其事ヲ訴出
 レタル日ヨリ生ス可レ
 第一千四百四十六條 婦ノ債主ハ其婦ノ承諾ヲ
 得スレバ夫婦ノ財産ヲ分ツ可キ事ヲ訴へ出
 スヲ得ス

然レ夫ノ家資分散ヲ為レタル時又ハ其産業
 ヲ破リタル時ハ其婦ノ債主其債ノ額ニ至ル
 迄其婦ニ代リテ其權利ヲ行フヲ得可レ
 第一千四百四十七條 夫其債主ノ權ヲ害セシガ
 為メ裁判所ヨリ夫婦財産ヲ分ツ可キノ言渡
 ヲ得タル時又ハ既ニ其言渡ノ如ク執行ニ始
 メタル時ト雖レ債主其言渡ノ執行ヲ止メレ
 ムルトテ訴フルヲ得可レ又其債主ハ財産ヲ
 分タントスル訴訟ニ管涉レテ之ヲ争フトテ
 得可レ

第千四百四十八條 夫ト財産ヲ分ツト得タル婦ハ己ノ家産ト夫ノ家産トニ准レテ其夫婦ノ間ニ生レシ子ノ養育ノ費用ト家事ノ費用トヲ出合ス可シ

若シ夫全ク其財産ヲ有セサル時ハ其婦此等ノ費用ヲ盡ク擔當ス可シ

第千四百四十九條 夫ト住居及ヒ財産ヲ分ナタル婦又ハ財産ノミヲ分ナタル婦ハ自カラ自由ニ其財産ヲ支配スルノ權ヲ復ス可シ

其婦ハ自己ノ動産ヲ人ニ贈與シ又ハ賣拂フ

ト得可シ

其婦ハ夫ノ承諾ヲ得タル上ニ非サレハ自己ノ不動産ヲ人ニ贈與シ又ハ賣拂フト得ス

又夫ノ其事ヲ承諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ非サレハ其不動産ヲ贈與シ又ハ賣拂フト得ス

第千四百五十條 夫ト財産ヲ分ナタル婦裁判所ヨリ允許ヲ得テ自カラ賣拂ヒレ不動産ノ代金ヲ其利益トナル可キ法方ニ用ヒス又ハ其代金ヲ以テ更ニ他ノ不動産ヲ買入レスト

雖其夫其責ニ任スルヲナカル可レ但レ夫其婦ノ不動産賣拂ノ契約ニ加ハリタル時又ハ其代金ヲ已ニ受取り又ハ已ノ利益ト為レタルノ證アル時ハ格別ナリトス若レ婦其夫ノ面前ニテ其承諾ヲ得タル上自己ノ不動産ヲ賣拂フタル時夫其代金ヲ利益トナル可キ方法ニ用ヒス又ハ更ニ他ノ不動産ヲ買入レサルニ於テハ其責ニ任ス可レ但レ其代金ヲ利益トナル可キ方法ニ用ヒタル時ハ現ニ其利益ノ生スルヲナレト雖其夫其

責ニ任スルヲナカル可レ

第一千四百五十一條 夫婦住居ト財産トヲ分チ

又ハ財産ノミヲ分チタルニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタルト雖其雙方ノ承諾ヲ以テ再ヒ其共通ヲ復スルヲ得可シ一度解除シタル財産ノ共通ヲ復サントスルニハ「ノテール」ノ面前ニ於テ證書ヲ記シ其證書ノ正本ヲ取り置キ且第一千四百四十五條ノ法式ヲ以テ其旨ヲ懸帖ニ記シテ公ケニ為ス可シ

此ノ如ク財産ノ共通ヲ復シタル時ハ婚姻ノ日ヨリ以来ノ其效ヲ再ヒ生セシメ嘗テ其財産ヲ分チシトナキト同様ノ景状ニ為ス可シ但シ此規則ト嘗テ財産ヲ分チタル時間ニ第一千四百四十九條ニ記スル所ニ循ヒ婦ノ記シタル證書ノ如ク執行ノ可キ規則ト相觸ル、トナカレ可シ

夫婦一度解除シタル財産ノ共通ヲ復サントスル時嘗テ其財産ヲ共通セシ時定ノタル法方ト異ナリレ法方ヲ用ヒ之ヲ共通セントス

ルノ契約ハ其効ナカル可シ

第一千四百五十二條 離婚シタル事又ハ住居ト財産トヲ分チタル事又ハ財産ノミヲ分チタル事ニ因リ其財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ婦其夫ヨリ後ニ生存スル時得可キ權ヲ行フトヲ得ス然レ夫ノ死去又ハ准死ニ因リ財産ノ共通ヲ解除シタル時ハ婦同上ノ權ヲ行フトヲ得可シ

○第四款 婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯スル事及ヒ肯セサル事並ニ其

事ニ管シタル必要ノ條件

第一千四百五十三條 夫婦財産ノ共通ヲ解除シ
タル後婦又ハ其遺物相續人及ヒ代權人其財
産ヲ受クルコトヲ肯シ又ハ之ヲ肯セサル事自
由ナリトス但シ之ニ反シタル契約ハ皆其効
ナカル可シ

第一千四百五十四條 婦從來其夫ト共通セシ財
産ノ事ニ管涉シタル時ハ其財産ヲ受クルコ
トヲ肯セサルヲ得ス
婦其共通セシ財産ヲ支配シ又ハ保全スルノ

コノ所置ヲ為シタル時ハ其財産ノ事ニ管涉
シタルモノト為ス可カラス 第七百七十八條
第七百七十九條
見合

第一千四百五十五條 丁年ノ婦其記シタル證書
中ニ共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯シタル旨ヲ
記セシ時ハ其財産ノ目錄ヲ記スル前ニ其證
書ヲ記シタルト雖モ其財産ヲ受クルコトヲ肯
セサルコトヲ得ス但シ天ノ遺物相續人ニ詐偽
アル時ハ格別ナリトス

第一千四百五十六條 夫ヨリ後ニ生存スル婦共

通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサルノ権利ヲ保
 有セントスルニハ夫ノ死去シタル日ヨリ三
 月内ニ夫ノ遺物相續人ノ面前ニテ又ハ其面
 前ニ非スト雖モ之ヲ呼出シ猶出席セサル上
 ニテ共通ノ財産ノ詳明真正ナル目錄ヲ記セ
 シム可シ
 其婦ハ其目錄ヲ成就シタル時立會官吏
 フ云ノ面前ニテ之ヲ真正ノモノナリト證ス
 可レ

第千四百五十七條

婦ハ夫ノ死去シタルヨリ

三月ト四十日内ニ夫ノ住所ヲ管轄スル下等
 裁判所ノ書記局ニ共通ノ財産ヲ受クルヲ
 肯セサルノ證書ヲ出ス可シ但シ其證書ハ遺
 物相續ヲ肯セサル旨ヲ記ス可キ為メ設ケタ
 ル簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第千四百五十八條

婦ハ其時ノ摸樣ニ從ヒ其

共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサルノ證書ヲ
 出スニ付キ前條ニ定メタル期限ノ猶豫ヲ得
 ント下等裁判所ニ訴フハ得可シ但シ其
 猶豫ノ期限ヲ許スニ付キ別段ノ道理アル時

ハ夫ノ遺物相續人ノ面前ニテ之ヲ言渡シ又
ハ其相續人ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ之
ヲ言渡ス可シ

第一千四百五十九條 婦前條ニ記シタル定期内

ニ共通ノ財産ヲ受クルトテ肯セサル證書ヲ
出サスト雖其目錄ヲ記セシメ其財産ノ事
ニ管涉シタルトナキ時ハ猶其財産ヲ受クル
トテ肯セサルノ權利アリトス然レ之ヲ受ク
ルトテ肯セサル證書ヲ出ス迄ノ時間ハ其共
通ノ財産ヲ受クルトテ肯シタル者ナリトシ

テ人ヨリノ訴訟ヲ受ケ且其證書ヲ出ス迄同
上ノ訴訟ヲ受クルニ付キ相手方ニ拂フ可キ
裁判費用ハ自己ノ財産中ヨリ償フ可シ又婦
其夫ノ死去シタル日ヨリ三月ニ至ラサル内
ニ目錄ヲ成就シタル時ハ其時ヨリ四十日ノ
期限ノ終リシ後同上ノ訴訟ヲ受ク可シ

第一千四百六十條 共通ノ財産中ノ物件ヲ自カ

ラ竊取シ又ハ其物件ヲ人ノ竊取シタルヲ隱
匿セシ婦ハ其共通ノ財産ヲ受クルトテ肯セ
サル旨ヲ述フルト雖其猶共通ノ財産ヲ受ク

ルヲ肯セシ者ナリト為ス可シ但シ婦ノ遺物相續人モ亦之ト同一ナリトス

第一千四百六十一條 若シ婦共通財産ノ目錄ヲ記シ又ハ之ヲ成就スルヲナク其夫ノ死去シタル日ヨリ三月ノ期限内ニ亦死去シタル時ハ其婦ノ遺物相續人目錄ヲ記シ又ハ之ヲ成就ス可キ為ノ婦ノ死去シタルヨリ三月ノ猶豫ト目錄ヲ成就セシ日ヨリ後熟思ノ為メ四十日ノ猶豫トヲ得可シ又其婦目錄ヲ成就シテ直チニ死去シタル時

ハ其遺物相續人熟思ノ為メ其婦死去ノ日ヨリ四十日ノ猶豫ヲ得可シ又其遺物相續人ハ前數條ニ記載シタル法式ヲ以テ共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セサルヲ得可シ且第一千四百五十八條及ヒ第一千四百五十九條ニ記載スル所ノ規則ハ其遺物相續人ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ第一千四百六十二條 第一千四百五十六條ヨリ以下數條ニ記スル所ノ規則ハ准死ヲ受ケタル者ノ婦ニ付キ其准死ノ時ヨリ亦通シテ之ヲ

用ノ可シ

第一千四百六十三條 夫ト離婚シタル婦又ハ夫ト居ヲ分チタル婦其離婚又ハ分居ノ確定ノ言渡アリシ日ヨリ三月ト四十日ノ期限内ニ共通ノ財産ヲ受クルトヲ為サ、ル時ハ之ヲ受クルトヲ肯セサルモノト為ス可シ但シ其期限内ニ其夫ノ面前ニテ又ハ夫ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ裁判所ヨリ更ニ其期限ノ猶豫ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第一千四百六十四條 婦ノ債主ハ其婦又ハ其遺

物相續人已ノ權利ヲ害セシカ為メ詐偽ヲ以テ共通ノ財産ヲ受クルトヲ肯セサル事アル時其事ニ管涉シ自己ノ權ヲ以テ共通ノ財産ヲ受クルトヲ肯スルヲ得可シ

第一千四百六十五條 婦ハ共通ノ財産ヲ受クルトヲ肯シタルト否トヲ問ハス目錄ヲ記シ且熟思ヲ為ス可キ為メ其得タル三月ト四十日ノ猶豫ノ期限間自己ノ飲食料及ヒ其僕婢ノ飲食料ヲ現存スル所ノ飲食料中ヨリ取用フルトヲ得可ク若シ現存スル飲食料ノアラサ

ル時ハ共通財産ノ合部中ヨリノ相當ノ金高
ヲ借受クルトテ得可シ但シ其金高ハ之ヲ節
約シテ用テ可シ
又其婦ハ同上ノ期限内ニ共通ノ財産中ノ家
屋又ハ夫ノ遺物相續人ニ屬スル家屋ニ居住
スルニ付キ其借賃ヲ拂フニ及ハス又財産ノ
共通ヲ解除シタル時其夫婦ノ居住セシ家屋
ヲ人ヨリ借受ケ其借賃ヲ拂フ可キモノタル
時ハ其婦同上ノ期限間自己ノ財産ヲ以テ其
借賃ヲ拂フニ及ハス共通ノ財産ヲ以テ之ヲ

拂フトテ得可シ

第一千四百六十六條 婦ノ死去シタルニ因リ財
産ノ共通ヲ解除シタル時ハ其婦ノ遺物相續
人法律上ニテ夫ヨリ後ニ生存シタル婦ノ為
メ定メタル所ノ期限ト法式トニ循ヒ共通ノ
財産ヲ受クルトテ肯セサルヲ得可シ

○第五款 共通ノ財産ヲ受クルトテ
肯シタル後其財産ヲ分派スル事

第一千四百六十七條 婦又ハ其遺物相續人共通
ノ財産ヲ受クルトテ肯シタル後左ノ方法ヲ

以テ其利得トナル可キ諸件ヲ分派シ且其負債ヲ擔當ス可シ

○第一節 利得ヲ分派スル事

第一千四百六十八條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ此章ノ第一則第二款ニ定メタル規則ニ循ヒ共通ノ財産中ニ償フ可キ諸件ノ當時現存スル財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第一千四百六十九條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ前婚ノ子ニ嫁資ヲ贈與スル為メ又ハ夫婦ノ間ニ舉ケタル子ニ一人ニテ嫁資ヲ贈與スル

為メ共通ノ財産中ヨリ取用ヒタル金高又ハ財産ノ代金ヲモ亦現存スル財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第一千四百七十條 夫婦又ハ其遺物相續人ハ左ノ物件ヲ財産ノ合部中ヨリ先ツ己ニ引取ル

- 第一 共通ト為サル一身ニ屬スル財産又ハ其財産ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ買入レタル財産
- 第二 夫婦財産ヲ共通セシ時間其一身

ニ属スル不動産ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ新タニ不動産ヲ買入レタルコトナキ時ハ其代金

第三 夫婦又ハ其遺物相続人共通ノ財

産中ヨリ得可キ所ノ償第千四百十九條第千四百三

十一條等見合セ

第千四百七十一條 婦ハ財産合部中ヨリ己ニ

引取ル可キ物件ヲ夫ヨリ先ニ引取ル可シ

婦ノ己ニ引取ル可キ物件品物ノ儘現存セサ

ル時ハ先ツ共通財産中ノ金高ヲ以テ其償ヲ

得次ニ共通財産中ノ動産ヲ以テ其償ヲ得若

レ其動産猶其償ニ足ラサル時ハ共通財産中

ノ不動産ヲ以テ其償ヲ得可シ但シ此場合ニ

於テ其不動産ヲ擇ムノ權ハ婦又ハ其遺物相

續人ニアリトス

第千四百七十二條 夫ハ己ノ得可キ物件ヲ引

取ラントスルニ付テ共通ノ財産ノミヲ引當

ト為スヲ得可シ

婦又ハ其遺物相続人ハ己ノ得可キ物件ヲ引

取ルニ付テ共通ノ財産ノミニテ尚足ラサル

時ハ夫ノ一身ニ屬スル財産ヲ以テ其引當ト
為スヲ得可シ

第一千四百七十三條 共通ノ財産中ヨリ夫又ハ
婦ニ返還ス可キ償又ハ夫又ハ婦ヨリ共通ノ

財産中ニ返還ス可キ償ニ付テハ財産ノ共通
ヲ解除シタル日ヨリ以來其息銀ヲ出ス可シ

第一千四百七十四條 財産ノ合部中ヨリ夫又ハ
婦ノ先ツ引取ル可キ部分ヲ盡ク引取リシ後

ハ其餘ノ物件ヲ夫婦又ハ其相続人等ノ間ニ
平分ス可シ

第一千四百七十五條 若シ婦ノ遺物相続人二人

以上アリテ其意各相異ナリ其中ノ一人ハ共

通ノ財産ヲ受クルヲ肯シ又一人ハ之ヲ受

クルヲ肯セサル時ハ之ヲ受クルヲ肯シ

タル者婦ノ得可キ財産中ニテ自己ノ相続ス

可キ部分ノミヲ收取スルヲ得可シ

其者ノ收取セシ以外ノ財産ハ皆之ヲ夫ニ屬

シ其夫ハ婦ノ相続人中ニテ共通ノ財産ヲ受

クルヲ肯セサル者ニ對シ婦ノ自カラ之ヲ

受クルヲ肯セサル時擔當ス可キ所ニ等シ

キ義務ヲ擔當ス可レ但レ此場合ニ於テ夫ノ
擔當ス可キ義務ハ婦ノ相續人中ニテ共通ノ
財産ヲ受クルトテ肯セサル者ノ得可キ部分
ノミニ管ス可レ

第一千四百七十六條 夫婦共通ノ財産ヲ分派ス
ルノ法式ニ管レタル諸事、不動産糶賣ノ事、
財産分派ヨリ生スル諸事、分派シタル諸件ヲ
保證スル事、分派ヲ得可キ者ノ部分ノ平等ニ
テサレ時之ヲ平等ニ為ス事ハ死者ノ遺物相
續人等ノ間ニ財産ヲ分派スルニ付キ此篇第

一卷遺物ニ定ノタル規則ニ循テ可レ

第一千四百七十七條 夫婦中一方ノ者共通セシ
財産中ノ物件ヲ竊取シ又ハ人ノ竊取シタル
ヲ知リ之ヲ隠匿セシ時ハ其物件ヲ己ニ得ル
ノ權ヲ失フ可レ第七百九十
二條見合

第一千四百七十八條 夫婦中一方ノ者自己ノ金
高ヲ以テ他ノ一方ノ一身ノ負債ヲ盡クシタ
ルニ因リ又ハ其他ノ原由ニ因リ其一方ノ者
他ノ一方ノ者ヨリ義務ヲ得可キ時ハ共通財
産ノ分派ヲ成就レタル後共通ノ財産中ヨリ

他ノ一方ノ者ノ得タル部分又ハ其者ノ一身ニ属スル財産ヲ以テ其義務ヲ得可キノ訴ヲ為スコヲ得可シ

第千四百七十九條 夫婦中一方ノ者他ノ一方ノ者ヨリ得可キ所ノ義務ハ其義務ヲ得可キコトヲ裁判所ニ訴出シタル日ヨリ以来其息銀ヲ生ス可シ

第千四百八十條 夫婦中一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ為シタル贈遺ハ共通ノ財産中ニテ其贈遺ヲ為シタル者ノ得ル所ノ部分及ヒ其

者ノ一身ニ属スル財産中ヨリ之ヲ得可シ
第千四百八十一條 婦其夫ノ喪ニ居ルニ付テノ費用ハ先ニ死去シタル夫ノ遺物相續人ヨリ之ヲ出ス可シ

其費用ハ夫ノ家産ニ准シテ之ヲ定ム可シ
共通ノ財産ヲ受クルコトヲ肯セサル婦ノ為メニモ亦夫ノ相續人ヨリ同上ノ費用ヲ出ス可シ

○第二節 夫婦共通ノ負債及ヒ其負債ヲ夫婦雙方ニ分派スル事

第一千四百八十二條 共通ノ負債ハ夫婦又ハ其
 雙方ノ遺物相續人各其半ヲ擔當ス可シ但シ
 財産ノ封印、目錄、動産ノ賣拂、其財産ノ算計、不
 動産ノ糶賣、共通財産ノ分派等ニ付テノ費用
 ハ其負債ノ一部分ナリトス

第一千四百八十三條 婦詳明真正ナル目錄ヲ記
 セシメ且其目錄ニ記シタル諸件ト分派ニ因
 リ自己ノ得ル所ノ部分タル諸件トノ精算ヲ
 為シタル時ハ己ノ得タル利得ニ至ル迄ノ外
 其夫ニ對シ又ハ債主ニ對シ共通ノ負債ヲ擔

當スルニ及ハス

第一千四百八十四條 夫ハ己ノ契約シテ負フク
 ル共通ノ債ノ全部ヲ擔當ス可シ但シ其債ノ
 半ヲ其婦又ハ婦ノ遺物相續人ヨリ己ニ償還
 セシムルノ權アリ

第一千四百八十五條 婦ノ一身ニ屬セン債共通
 ノ債トナリシ時ハ其夫其半ノミヲ擔當ス可
 シ

第一千四百八十六條 婦ノ一身ニ屬セン債共通
 ノ債トナリシ時ハ其債主ヨリ其債ノ全部ノ

償還ニ付キ訴訟ヲ受ク可シ但シ其債ノ半ヲ其夫又ハ夫ノ遺物相續人ヨリ己ニ償還セシムルノ權アリ

第千四百八十七條 婦ハ共通ノ負債ヲ一身ニ擔當シタル時ト雖モ其負債ノ半ノミニ付キ訴訟ヲ受ク可シ但シ夫ト連帶シテ其債ヲ負フタル時ハ格別ナリトス

第千四百八十八條 婦共通ノ負債ノ半以上ノ償フタリト雖モ其半ニ過キタル部分ヲ其債主ヨリ取還サントスル訴ヲ為スコトヲ得ス但

シ婦其債ヲ償フタル證書ニ己ノ償フタル所ハ共通ノ債ノ半ナル事ヲ記シタル時ハ格別ナリトス

第千四百八十九條 夫婦中一方ノ者分派ニテ得タル不動産嘗テ「イポテ」ト為シタルモノタルニ因リ其一方ノ者共通ノ負債ノ全部ニ付キ訴訟ヲ受ケタル時ハ他ノ一方ノ者又ハ其遺物相續人ニ對シ其負債ノ半ノ償還ヲ得ント訴フルコトヲ得可シ

第千四百九十條 前數條ノ規則アリト雖モ夫

婦共通財産ノ分派ノ約定ニ因リ夫婦中一方
 ノ者共通ノ負債ノ半以上又ハ其全部ヲ償フ
 可キノ任ヲ受クルトヲ得可シ
 夫婦中一方ノ者共通ノ負債中ニテ其擔當ス
 可キ部分ヨリ更ニ多ク償フタル時ハ他ノ
 一方ノ者ニ對シ償還ノ訴ヲ為スヲ得可シ
 第一千四百九十一條 夫又ハ婦ノ事ニ付キ前數
 條ニ記載シタル所ハ夫又ハ婦ノ遺物相續人
 ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ但シ夫ノ遺物相
 續人ハ夫ト同一ノ權利ヲ行ヒ且同一ノ訴訟

ヲ受ケ又婦ノ遺物相續人ハ其婦ト同一ノ權
 利ヲ行ヒ且同一ノ訴訟ヲ受ク可シ

○第六款

共通ノ財産ヲ受クルヲ肯
 セサル事及ヒ之ヲ肯セサルヨリ
 生スル諸件

第一千四百九十二條 共通ノ財産ヲ受クルトヲ
 肯セサル婦ハ其財産ヲ得ルノ權ヲ失ヒ且嘗
 テ自ガテ其共通ノ財産中ニ加入セシ動産ト
 雖モ亦之ヲ得ルノ權ヲ失フ可シ
 其婦ハ麻布類及ヒ衣服類ヲ自己ノ須用ノ為

ノニ所得ト為スヲ得可シ

第千四百九十三條 共通ノ財産ヲ受クルヲ

肯セサル婦ハ左ノ諸件ヲ取戻スノ權アリ

第一 婦ニ屬スル不動産其儘ニテ現存

スル時ハ其不動産又其不動産ヲ既ニ

賣拂ヒ其代金ヲ用ヒテ更ニ他ノ不動

産ヲ買入レタル時ハ其不動産

第二 婦ノ不動産ヲ賣拂ヒ夫其代金ヲ

前ニ記シタル如ク用フルヲナク又之

ヲ用ヒタルト雖モ婦其用方ヲ承諾セ

サル時ハ其代金

第三 共通ノ財産中ヨリ其婦ノ得可キ

總テノ償

第千四百九十四條 共通ノ財産ヲ受クルヲ

肯セサル婦ハ其夫又ハ債主ニ對シ共通ノ負

債ヲ全ク擔當スルニ及ハス○然レ婦其夫ト

連帶シテ負債ヲ償フ可キ契約アル時又ハ共

通ノ負債元來婦ノ負シモノタル時ハ婦其債

主ニ對シテ其負債ヲ擔當ス可シ但レ此場合

ニ於テハ婦ヨリ夫又ハ其遺物相續人ニ對シ

償還ノ訴ヲ為スルヲ得可シ

第一千四百九十五條 共通ノ財産ヲ受ケルコトヲ肯セサル婦ハ共通ノ財産ト夫ノ一身ノ財産トニ付キ前數條ニ記載シタル訴訟ヲ為スノ權及ヒ取戻ヲ為スノ權ヲ行フコトヲ得可シ其婦ノ遺物相續人ハ麻布類及ヒ衣服類ヲ所得ト為ス事及ヒ目錄ヲ記シ且熟考ヲ為スルノ定メタル期限間借貸ヲ出サスレテ家屋ニ住スル事並ニ飲食料ヲ得ル事ヲ除クノ外其婦ト同一ノ權利ヲ行フコトヲ得可シ但シ麻布

類、衣服類、家屋ノ借貸、飲食料ニ付テノ權利ハ夫ヨリ後ニ生存シタル婦ノ一身ノニ限ル可キモノトス

○夫婦中一方ノ者又ハ雙方ノ者前婚ノ子アル時法律上ノ財産共通ニ管シタル規則

第一千四百九十六條 夫婦中一方ノ者又ハ雙方ノ者前婚ノ子アル時ト雖モ前數條ニ記シタル規則ニ循フ可シ

然モ若シ動産ト負債ト渾同スルニ因リ夫婦

中一方ノ者ヲシテ第十九十八條 贈遺ニ定
 タル所ヨリ更ニ多分ノ利益ヲ得セシムル
 アル時ハ他ノ一方ノ者ノ前婚ノ子其利益
 減ス可キノ訴ヲ為スヲ得可シ

辻士革華受

佛蘭西民法十終
 法律書

